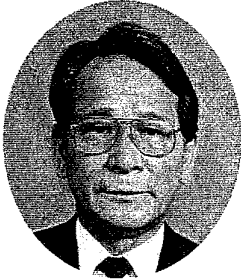


## 提 言



# 発想の転換を

## －「生きる力」を育てる 「総合的な学習の時間」の取組－

川内市教育委員会教育長

石 塚 勝 郎

### 1 はじめに

新しい学習指導要領が出され、いよいよ新世紀に向けて「ゆとり」の中で「生きる力」を育てるといふ、これからの学校教育の方向が示された。具体的には、完全学校週5日制や総合的な学習の導入など、大きな改革が進められることとなった。学校においては、2002年からの本格実施に向けて、どのようにすれば新しい指導要領の趣旨にそった教育が実践できるのか、移行のための研究や実践の努力が進められている。

そのような中で、「生きる力」の育成と基礎・基本の定着、総合的な学習の在り方、教科学習と総合的な学習とのかかわり、ゆとりのある学校づくり、開かれた学校づくりや特色ある学校づくり等々の課題が提起されている。特に、「総合的な学習の時間」を中心に、地域、学校、児童、生徒の実態に応じて各学校が、総意工夫を生かした教育活動を展開することとなっていることから、解明されなければならない課題である。

### 2 教育観の転換を

中央教育審議会は、その答申において「生きる力」を次のように説明している。

これからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決しようとする能力や資質（自分の生き方の舵取りは自らの力でできること）、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性（他と共生できること）である。

このことから、これからの教育活動においては、子供たちが他と共生しながら、自分の生き方の舵取りは自らの力でできるような場を構成することが必要である。そのためには、決められた枠や時間の中で、一人の教師が多くの子供を教え導いていくというこれまでの教育の在り方に対する考え方を転換しなければならないと思う。

#### (1) 学校観の転換を

閉鎖的といわれる学校から開かれた学校への転換である。学校は地域の中に地域と共にあるという考え方で、地域全体で学校教育を進めることである。地域の実態や課題を踏まえた教育方針や内容を設定し、それを地域に開いて、地域と共に学ぶという考え方に立つことである。そして地域にある教育的資源（自然、文化、風土、歴史、人材等）を学校教育の中に最大限に

生かす一方で、学校の機能（施設・設備、人材等）を地域に開放し、学校が地域と一体となった学びの場となるようにしたいものである。

このことによって、地域の課題と学校や子供たちの学習課題が一致（課題の共有）し、その解決に当たっては、学校と地域がいっしょになって取り組み（課題解決に向けての共働）、解決の過程における苦労や解決の喜びを共に味わう（生活の共生）ことになり、学校と地域が共に学ぶという、生き生きとした教育活動の姿が期待できると思う。

## (2) 学習観（授業観）の転換を

子供たちが、他と共生しながら、自分の生き方の舵取りを自らの力でできるようにするためには、これまでの教師主導の学習から子供主体の学習への転換が必要である。

- ① 教師が黒板を背にして、教えこんでいく姿から、子供たちが自らの課題解決に向けて主体的に学習していく姿の授業を構成したい。教師は、一人一人の子供の学習の状況を的確に把握しながら、個に応じた適切な指導、助言、支援をしていくことである。
- ② 教師一人の授業から、複数教師による授業も既にチームティーチングの方策が取られている、中心になるのは担当教師でも、他の教師の支援、地域の人材や保護者等の協力を得て複数の教師（指導者）による授業も工夫したい。
- ③ 同一学級の子供による学習から、小グループ、多学級、異年齢集団による学習など、学級の枠を越えた発想も生かしたい。
- ④ 学習時間についても、子供の発達段階や学習内容に応じて設定し、全体として標準時数を満たしていくという弾力的な工夫もしたい。
- ⑤ 学習の場を教室以外にも広げ、校内における教室外での学習や、校外において五感を通して学ぶ体験的な学習を積極的に取り入れたい。

思いきった学習観の転換を図ることによって、子供たちは、地域に根ざした自らの課題を見つけ、他の子供と協力したり、保護者や地域の人々の力を借りたり共同学習をしたりして課題解決に当たれるようになる。その過程や結果が、他との共生であり、自からの生き方の舵取りであり、[生きる力]として身につけていくことになる。

## 3 おわりに

新しい指導要領では、[生きる力]の育成をねらいとし、「総合的な学習の時間」においてその達成を期待している。現実的には、教科学習において身につけた基礎・基本を「総合的な学習の時間」において生かすとともに、「総合的な学習の時間」の成果を教科学習に生かすことで主体性を育てるという相互作用を考えていきたい。教科学習においては、基礎・基本を着実に定着させるための、練習したり鍛えたり覚えたりする時間も忘れてはならない。子供たちは、総合的な学習において課題解決に取り組むときに身につけた基礎・基本を駆使していくはずである。

新しい指導要領の趣旨を生かし、[生きる力]を育てるためには、「総合的な学習の時間」への積極的な取り組みが何より肝要である。また、「総合的な学習の時間」に取り組むには、まず教育界が学校教育の在り方に対する考え方をかえることが出発点であると思う。